

特集 >>> 舗装

直轄工事における総合評価方式の実施状況

平成 21 年度年次報告

多田 寛

国土交通省では、国土交通省直轄事業における公共事業の品質のさらなる確保・向上を図るため、総合評価方式の活用・改善や多様な入札・契約制度の導入等、入札・契約に関する諸課題への対応方針について検討を行っており、これら検討に資するため国土交通省における総合評価方式の実施状況を取りまとめている。本稿では、国土交通省直轄工事における総合評価方式の技術評価の実施状況、落札者の状況等の概要について報告する。

キーワード：総合評価方式、公共工事、入札・契約制度、品質確保、実施状況

1. はじめに

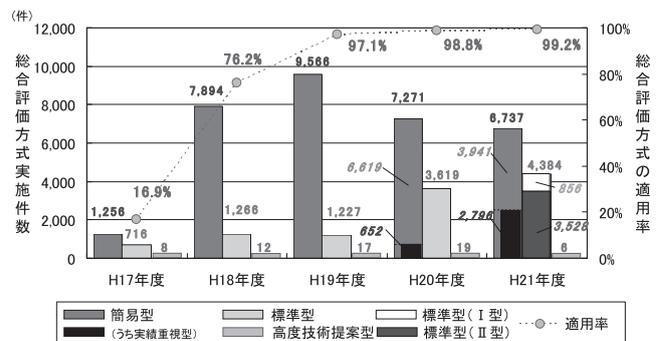
国土交通省では、国土交通省直轄事業における公共事業の品質のさらなる確保・向上を図るため、平成 21 年度に設置した「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」（座長：小澤一雅東京大学大学院工学研究科教授）において、総合評価方式の活用・改善や多様な入札・契約制度の導入等、入札・契約に関する諸課題への対応方針について検討を行っており、これら検討に資するため国土交通省における総合評価方式の現況を取りまとめた「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（年次報告）」を作成している。本稿ではその概要について報告する。

2. 総合評価方式の普及・拡大の状況

年度別及びタイプ別の総合評価方式の実施件数と実施金額について、それぞれ図一 1 及び図一 2 に示す。

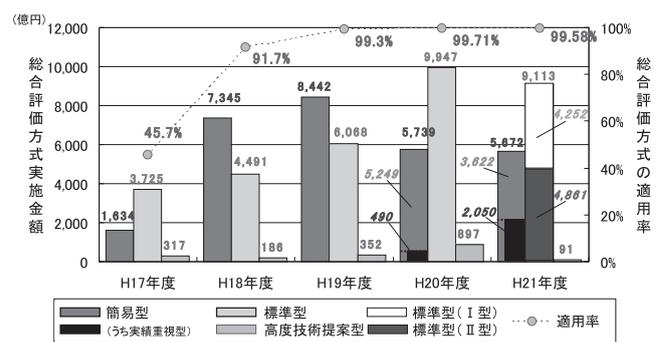
平成 21 年度における総合評価方式の適用率は件数ベースで 99.2% となり、ほぼ 100% の適用状況となっている。タイプ別では、最も多いのは簡易型の 6,737 件（全体に占める割合 60.5%）で、最も少ないのは高度技術提案型の 6 件（同 0.05%）である。また、早期発注対策として実施した実績重視型（簡易型の内数、以下同じ）は 2,796 件で、全総合評価件数の 25.1% を占めている。

また、金額ベースでの平成 21 年度における総合評価方式の適用率は 99.6% となり、ほぼ 100% の適用状況となっている。タイプ別では、最も多いのは標準型



注 1) 8 地方整備局における実施件数。
注 2) 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

図一 1 年度別・タイプ別の実施状況（件数）



注 1) 8 地方整備局における当初実施金額。
注 2) 適用率は随意契約を除く全発注工事金額に対する総合評価方式実施金額の割合。

図一 2 年度別・タイプ別の実施状況（金額）

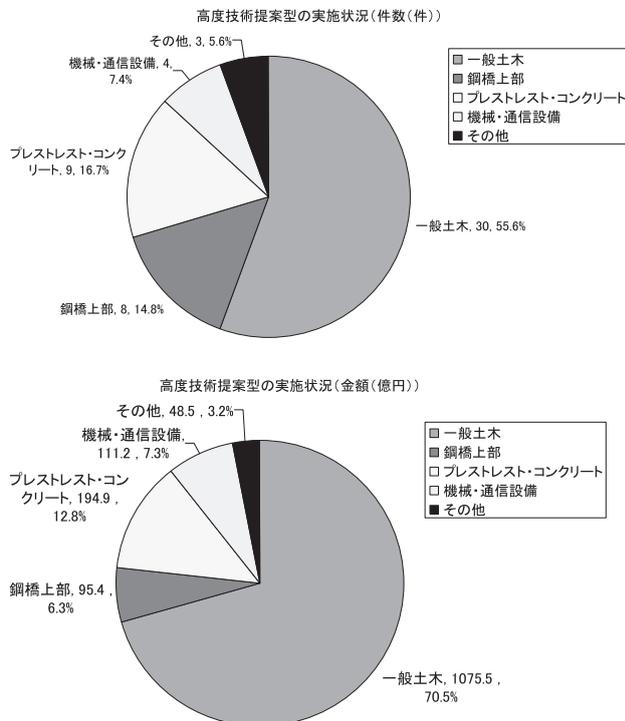
の 9,113 億円（全体に占める割合 61.3%）で、最も少ないのは高度技術提案型の 91 億円（同 0.6%）である。また、早期発注対策として実施した実績重視型は 2,050 億円で、全総合評価件数の 13.8% を占めている。

3. 高度技術提案型の実施状況

総合評価方式の各タイプのうち高度技術提案型について、工種別の実施件数と実施金額を図—3に示す。

高度技術提案型は、平成18～21年度において、一般土木、鋼橋上部、プレストレストコンクリートの各工種において実施するケースが多く、件数ベースで47件（全体に占める割合87.0%）、金額ベースで1,366億円（同89.5%）である。

平成21年度において、高度技術提案型の実施件数が減少した主な理由は、早期発注による手続き期間の短縮、大規模事業の見直しによる発注方針の変更等が考えられる。



注1) 8 地方整備局を対象。

注2) 全工種を対象。

図—3 高度技術提案型 件数と金額（平成18年度～平成21年度）

4. 技術評価の実施状況

(1) 技術評価点の得点状況

総合評価方式の各タイプにおける技術評価点（標準点+加算点+施工体制点）の得点状況について図—4に示す。

満点（標準点+加算点満点+施工体制点）に占める技術評価点の割合は、標準型（I）、標準型（II）、簡易型、実績重視型の何れも90%以上となる件数が過半数を超えており、それぞれ63.4%、65.7%、80.9%、84.7%を占めている。

(2) 評価項目の配点率

地方整備局別の加算点における各評価項目の配点率について、標準型を図—5、簡易型を図—6にそれぞれ示す。

標準型（I型）及び標準型（II型）とも、「技術提案」の配点率に相違がみられるとともに、「技術提案以外」の配点率についても、たとえば「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もあるなど、相違がみられた。

簡易型では、「簡易な施工計画」を設定していない地方整備局もあるが、約半数が10%～30%程度の配点率となっているとともに、「簡易な施工計画以外」の配点率について、たとえば「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もあるなど、簡易型、実績重視型ともに、配点率に相違がみられた。

(3) 落札者と非落札者の得点率とその差

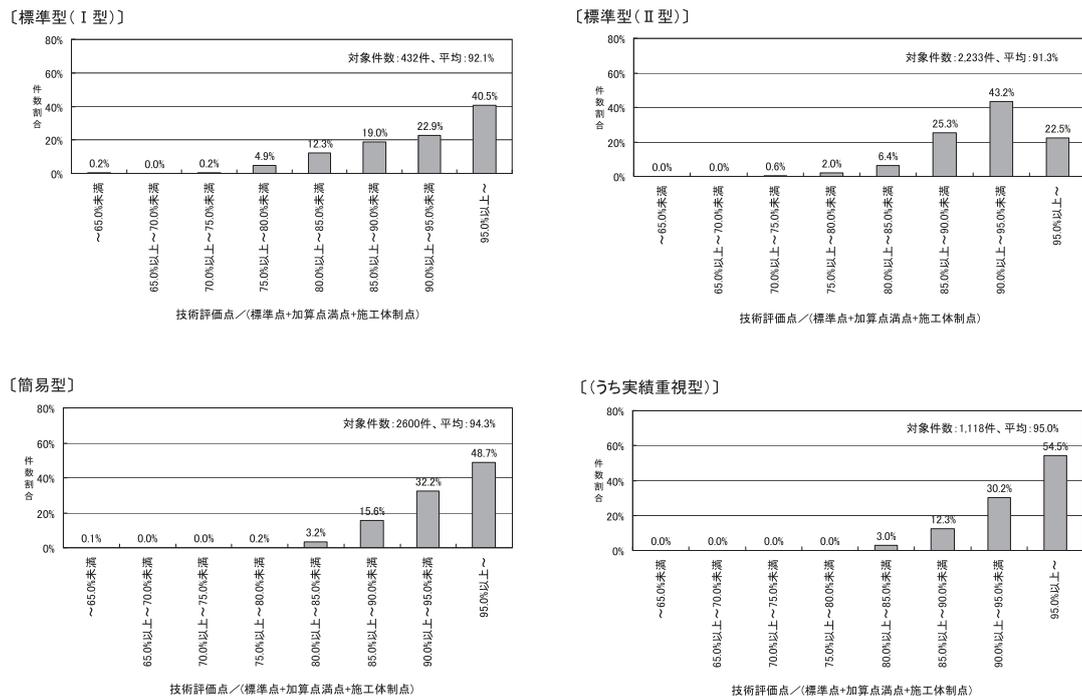
標準型における各評価項目の落札者と非落札者の得点率とその差について図—7に示す。

標準型（I型）の評価項目のうち、平成21年度において、落札者の得点率の平均値が高いのは「地理的条件」、「ヒアリング」、及び「手持ち工事量」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「ヒアリング」、「地理的条件」、及び「企業の施工能力」である。また、標準型（II型）の評価項目のうち、平成21年度において、落札者の得点率の平均値が高いのは「ヒアリング」、「地理的条件」、及び「地域貢献の実績」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「地理的条件」、「ヒアリング」、及び「地域貢献の実績」である。

標準型における技術提案に係る評価項目別の落札者と非落札者の得点率とその差について図—8に示す。

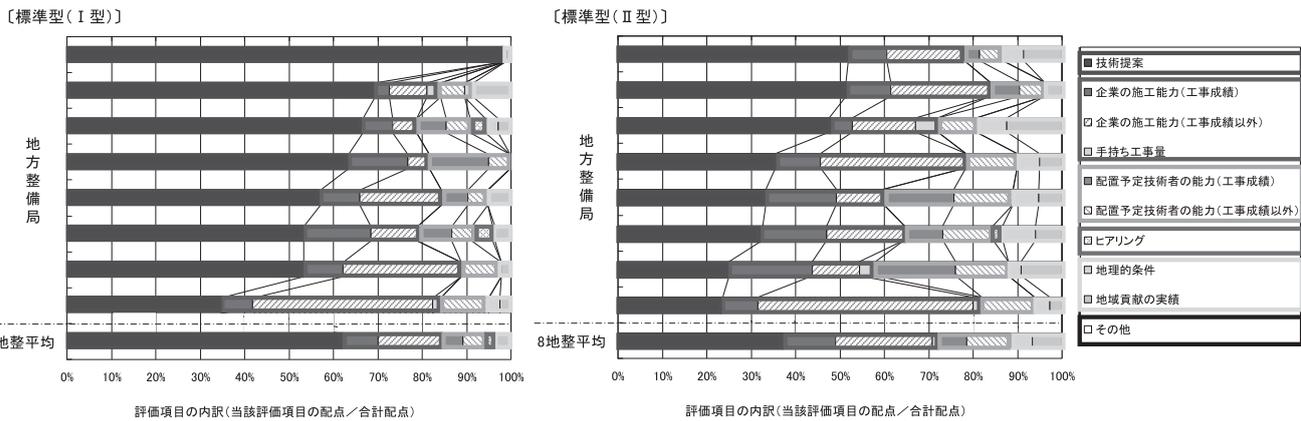
標準型（I型）の技術提案に係る評価項目のうち、平成21年度において、落札者の得点率の平均値が高いのは「工事中の騒音対策・低減値」、「安全施工対策」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「安全施工対策」、「鋼材の耐久性向上」である。

標準型（II型）の技術提案に係る評価項目のうち、平成21年度において、落札者の得点率の平均値が高いのは「工事中の騒音対策・低減値」、「コンクリートの耐久性向上」、及び「第三者（住民等）に対する安全対策」である。また、落札者と非落札者で得点率に



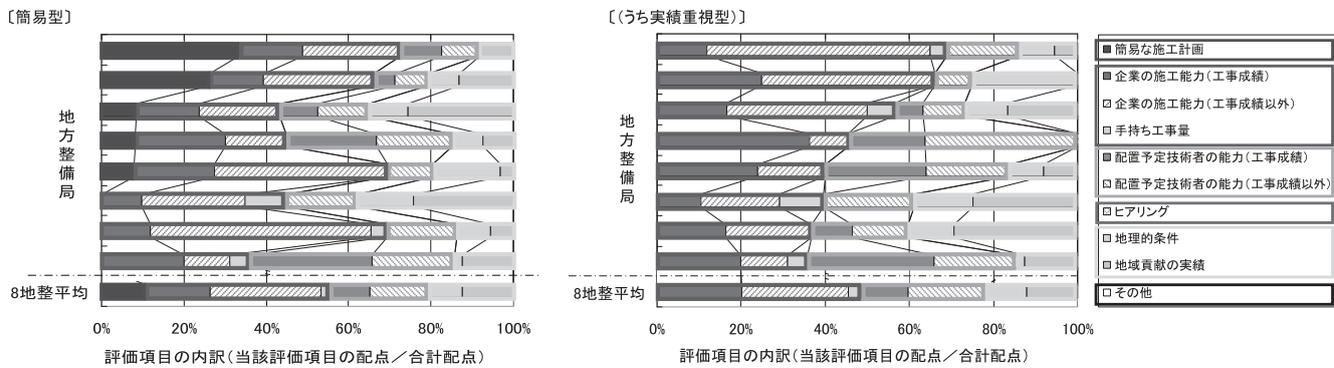
注 1) 主要 4 工種（一般土木、AS 舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図-4 技術評価点の得点状況



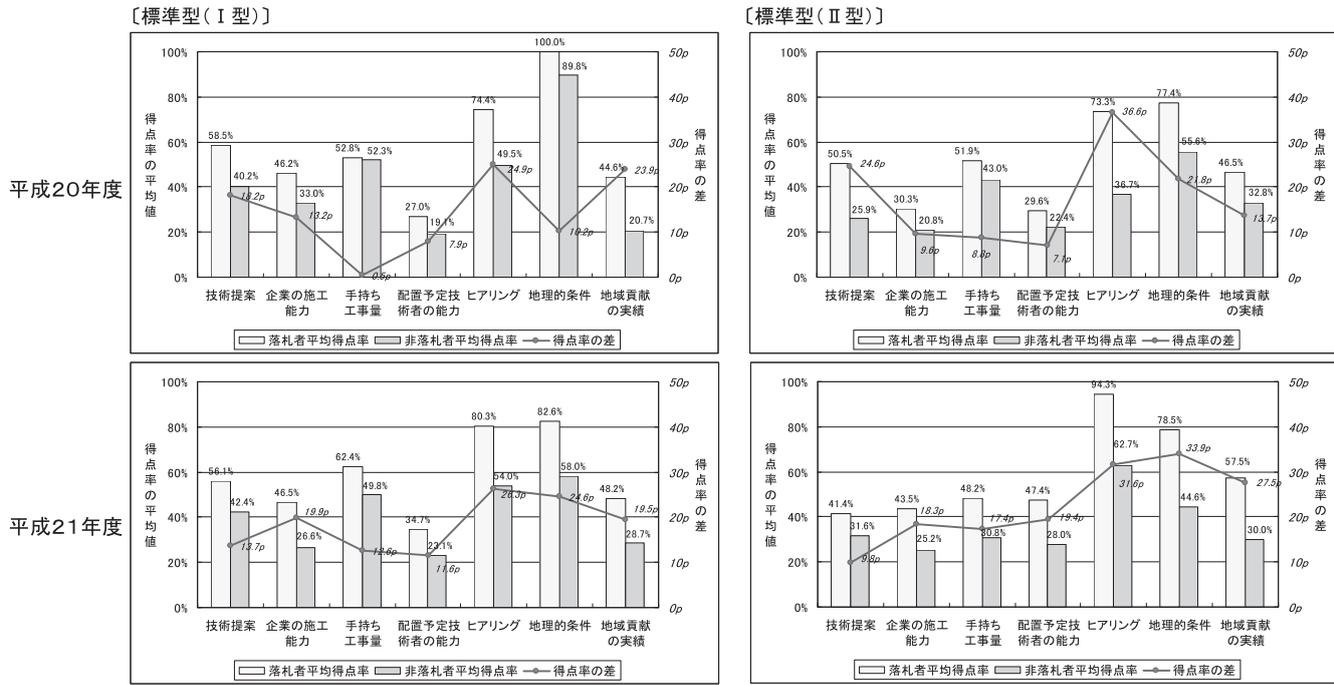
注 1) 平成 21 年度の契約工事のうち、各評価項目の詳細配点を確認でき、かつ主要 4 工種（一般土木、AS 舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。
注 2) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合

図-5 地方整備局別 各評価項目の配点率（標準型）



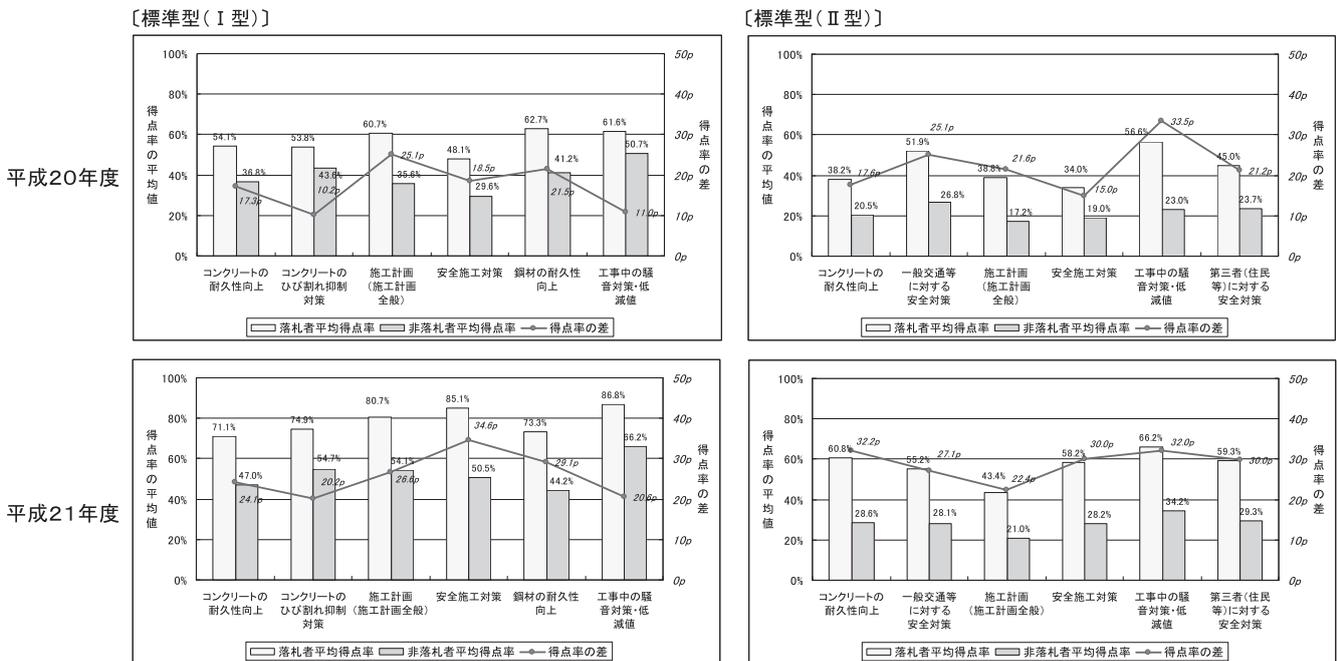
注 1) 平成 21 年度の契約工事のうち、各評価項目の詳細配点を確認でき、かつ主要 4 工種（一般土木、AS 舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。
注 2) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合

図-6 地方整備局別 各評価項目の配点率（簡易型）



注1) 得点率：各評価項目の配点に対する得点の割合。
 注2) 得点率の差：落札者と非落札者の平均得点率の差。
 注3) 平成20年度、平成21年度の契約工事のうち、主要4工種（一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図一七 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差（標準型）



注1) 得点率：各評価項目の配点に対する得点の割合。
 注2) 得点率の差：落札者と非落札者の平均得点率の差。
 注3) 平成20年度、平成21年度の契約工事のうち、主要4工種（一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

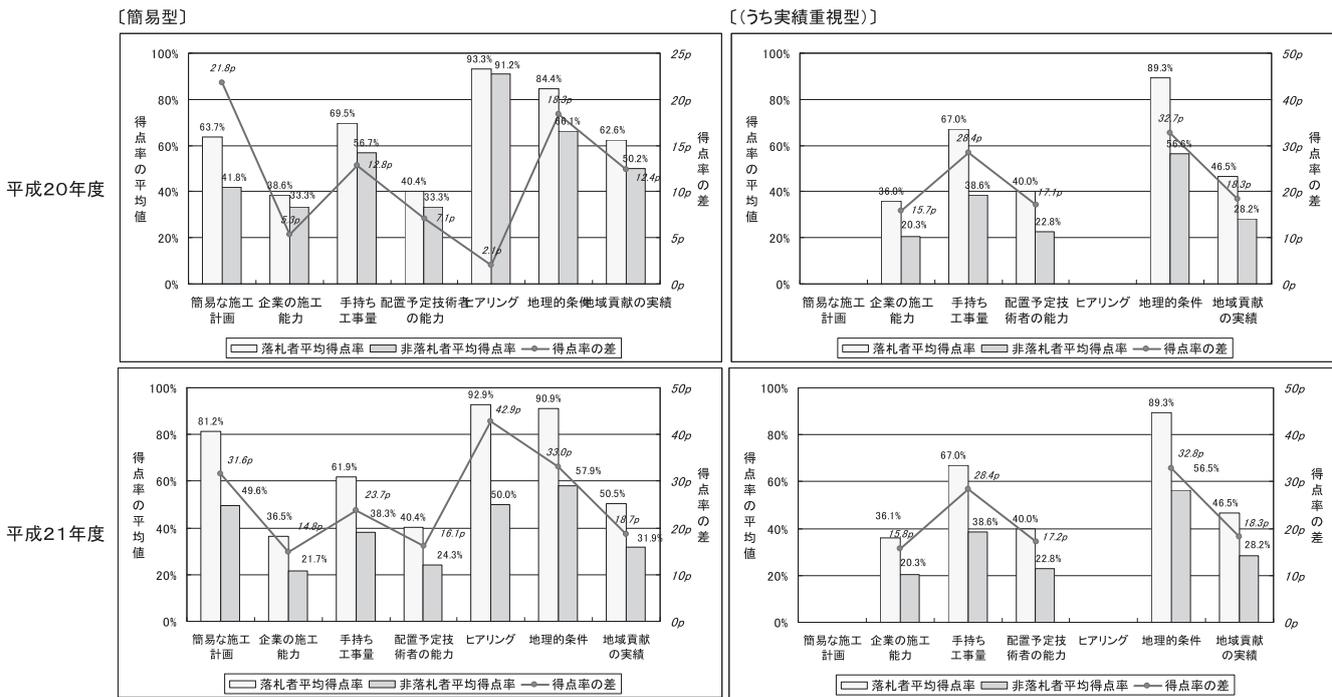
図一八 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差（標準型）

差がついているのは、「コンクリートの耐久性向上」、「工事中の騒音対策・低減値」である。

簡易型における各評価項目の落札者と非落札者の得点率とその差について図一九に示す。

簡易型の評価項目のうち、平成21年度において、

得点率の平均値が高いのは「ヒアリング」、「地理的条件」、及び「簡易な施工計画」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「ヒアリング」、「地理的条件」である（ただし、「ヒアリング」を採用している工事件数は7件である）。実績重視型



注1) 得点率：各評価項目の配点に対する得点の割合。
 注2) 得点率の差：落札者と非落札者の平均得点率の差。
 注3) 平成20年度，平成21年度の契約工事のうち，主要4工種（一般土木，As舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図一9 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差（簡易型）

についても，平成21年度における全体の傾向は「簡易な施工計画」「ヒアリング」（採用なし）を除いて簡易型とほぼ同様である。

5. 落札者の状況

(1) タイプ別の加算点の設定状況

総合評価方式の各タイプにおける加算点（満点）の設定状況について図一10に示す。

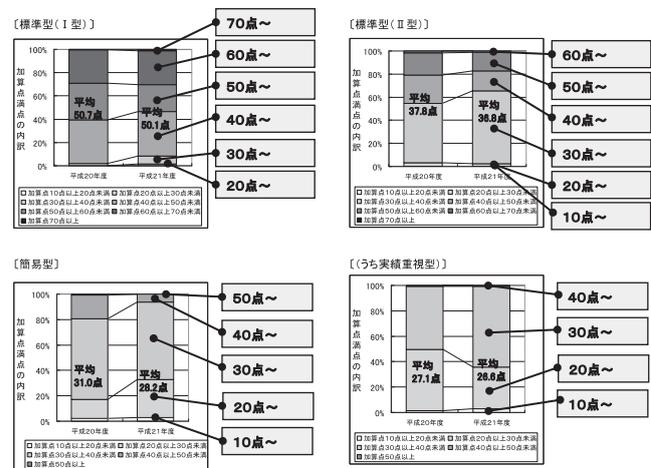
加算点の平均は，標準型（I）50.1点，標準型（II）36.8点，簡易型28.2点，実績重視型26.6点となっており，技術評価を重視する度合いが大きいほど高い配点となっている。

加算点数別では，標準型（I）は加算点を50点以上とした件数が53.4%を占める一方，その他の型は，全て30～40点とした件数が最も多く，標準型（II）63.0%，簡易型60.9%，実績重視型63.7%を占めている。

(2) 入札価格と技術評価点得点との関係

「入札価格（最低価格，最低価格以外）」と「技術評価点の得点（最高得点，最高得点以外）」との関係で落札者の割合を年度ごとに整理した結果を図一11に示す。

最高得点者（最低価格者以外）が落札した割合は，標準型（I）56.4%，標準型（II）31.8%，簡易型26.3%（実



注1) 予定価格内1者の工事を除く。
 注2) 主要4工種（一般土木，AS舗装，PC，鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図一10 年度別：加算点満点の設定状況

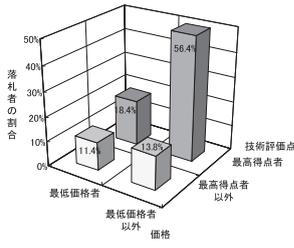
績重視型は27.7%)となっており，技術評価を重視する度合いが大きいほど高い割合となっている。

6. 施工体制確認型の実施状況

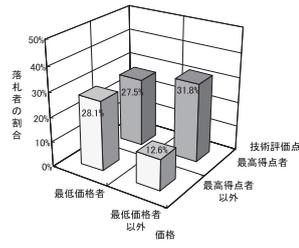
国土交通省直轄工事の各工種における工事成績評定点と落札率について，施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合で整理した結果を図一12に示す。

施工体制確認型を導入した場合の平均工事成績評定

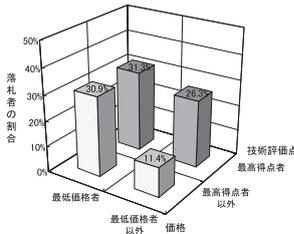
〔標準型(I型)〕



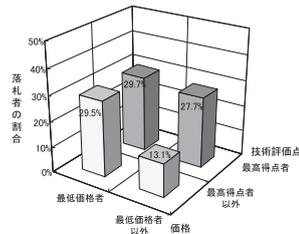
〔標準型(II型)〕



〔簡易型〕



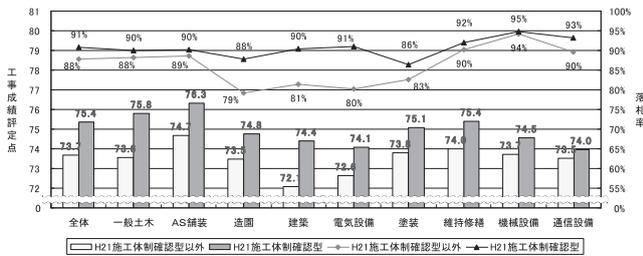
〔うち実績重視型〕



注1) 予定価格内1者の工事を除く。

注2) 主要4工種（一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

図-11 落札者の内訳



注1) 工種別は、平成21年度の実施件数が100件以上の工種を対象。

図-12 工種別 工事成績評定点と落札率の状況

点は75.4点で、導入しない場合と比較して1.7点高くなっている。

工種別に、施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合における工事成績評定点を比較すると、何れの工種においても、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、建築（2.3点差）、一般土木（2.2点差）、アスファルト舗装（1.6点差）の差が大きくなっている。

また、落札率も、何れの工種において、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、電気設備（11ポイント）、造園（9ポイント）、建築（9ポイント）の差が大きくなっている。

7. おわりに

本稿で述べた平成21年度の年次報告も含め、過年度作成の「国土交通省直轄工事における総合評価方式の実施状況（年次報告）」、及び「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」におけるこれまでの検討内容・検討成果は国土技術政策総合研究所のホームページ（URL：<http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm>）に掲載されているのでご参照いただきたい。

JICMA



〔筆者紹介〕

多田 寛(ただ ひろし)

国土交通省

国土技術政策総合研究所総合技術政策研究センター

建設マネジメント技術研究室

研究官